

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
44	川崎市立上丸子小学校	西田 寛

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
「3つの心を育もう」 学びの心 たくましい心 やさしい心	・確かな学力を育むカリキュラム・授業づくり ・「なりたい自分、在りたい自分が実現する学校・学級づくり」 ・安全・安心で自己発揮できる人間関係づくり ・保護者・地域が参画する学校づくり ・学び合う教職員風土の醸成と機動的な組織づくり	受容と共感で、笑顔あふれる学校づくり ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・自分も相手も大切にすることを醸成 ・誰一人取り残されない学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力の向上	○地域や学校の特色、児童の実態を生かした体験活動を教育活動に位置付け、社会に開かれた教育課程を編成する。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「能動的に学ぶ」授業改善を図る。 ○基本的・効果的な指導や指導方法を共通理解し、徹底する。	○校内研究やプロジェクトを通して児童の実態に合わせた単元開発ができた。 ○社会に開かれた教育課程の実践を意識し、行政と連携を取り、多くの保護者や地域の協力を得て、授業を行うことができた。 ○校内研究では、ちがいを認め合い自分たちのよりよい未来を創造しようとする力を育む授業改善について考えることができた。全員授業により、主体的に授業改善に取り組むことができた。 ○より組織的な授業改善の研修に取り組む必要がある。	○多摩川学習とキャリア教育に取り組んだ時期に全学年学校公開を行う。 ○校内研究を通してカリキュラムの見直しを行い、さらに地域に開かれた上丸子小プランの作成を図る。 ○校内研究が日常の授業改善に結びつけられるような組織的な取組を行う。 ○GIGA端末を授業改善に活用できてきたので、個別最適化をめざしたGIGA端末の具体的な活用を図る。 ○小教研の意義を職員へ発信し、積極的に研修へ取り組む。 ○GIGA端末については、校内共通のきまりを作成し活用を始めた。次年度に向けて、端末の持ち帰り等、ステップ3の実現に向けて、活用の際の確認と共に多面的な指導をしていく。
2 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	○「深い学び」の実現を目指し、「考えを深めたり、広げたりするための表現活動」「見通し、次時につなげる振り返り」を位置付けた授業づくりを取り組み、授業力の向上に努める。 ○ICTの効果的な活用を図るとともに、話を聞く姿勢やノートづくり等の学習習慣の確立と誰もが参加できる分かりやすい授業づくりに取り組む。 ○規範意識と自己有用感の醸成を図る。 ○特別活動を中心として自主的・自治的な活動を保障する。 ○心体の健康・安全への意識を高めるために健康・安全教育の推進を図る。 ○学年を中心に学校全体での相談体制を確立し、一人一人の児童の居場所づくりに努める。 ○道徳を中心とした人権尊重教育を通して、道徳的実践力を高める。 ○いじめの未然防止に向けて効果測定、共生*共育、学校生活アンケート等の有効活用を図る。 ○学校の取組を効果的に発信し、保護者や地域の学校運営への理解と協力を仰ぐ。 ○学校運営協議会と学校運営との連携を強化し実効性のある学校評価につなげる。 ○教育公務員としての自覚を高め、働きがいのある職場環境の創出に努める。 ○目的に向かって方法を創出できる、挑戦できる組織づくりを目指す。	○「違いを認め合い、みんなと共に生きていく力」「よりよい集団や社会をつくらうとする力」「なりたい自分に向けてがんばる力」を育成する基盤としての学級経営の充実を努める。 ○学校教育目標を踏まえて全クラスが学級目標を設定した。行事には児童会活動(プロジェクト)を中心とした取組を行い、主体的にかかわることで達成感をもち、自己有用感が高まった。 ○発達段階に合わせたどの学級も学級会に計画的に取り組んだ。主体的に学級づくりにかかわる意識をもった効果的な取組ができた。 ○児童会活動とリンクさせ、たてわり活動や委員会、クラブ等の異学年交流に取り組むことができた。 ○学級会の活用が苦手な教員が多いことがアンケートからうかがえた。 ○栄養職員や養護教諭とのT.T.を行い、健康・安全の学級指導を充実させることができた。 ○水害での垂直避難、不審者等の防災訓練を行った。防災教育では、理科の学習と関連付け、地域の方と連携した学習を行った。 ○学年Coや学年主任を中心にケース会議を立ち上げ、課題のある児童に対して迅速に対応した。 ○いじめや体罰の研修を年度途中に実施し、学んだことを生かして対応した。 ○道徳の授業は、学年が児童の実態や発達段階に合わせ、最適な時期や指導事項を興味し計画的に取り組むことができた。 ○数年間の制限のある中、外部人材との連携がうすれてしまい、難しかった。 ○学年による効果測定の見取りや話し合い、共生*共育が定着している。 ○計画されていた朝会だけでなく、必要に応じて学年朝会を有効に活用し、各学年の児童の実態や課題に応じた全体指導を丁寧かつ迅速に行うことができた。 ○授業参観は実施方法を工夫し、早い段階で児童の学習や生活の様子を参観していただいた。 ○運動会では、育てたい資質・能力の観点を明らかにしながら、全校で各学年を参観する形で行った。異学年の活躍頑張りを目にすることで学校への愛着が深まった。 ○学校だより、学年だよりの形式を見直した。学年だよりでは、子どもたちの学びの様子を記した。 ○学校運営協議会は全4回実施し、協議会委員の方々には授業をはじめ学校での取組にご協力いただいた。 ○運動会等諸行事の参観は実施できた。授業参観も制限を解いたので、多くの保護者に来校していただいた。 ○職員会議の中で年間を通して教育公務員としての規範意識について指導してきた。 ○保護者からの問い合わせがあった際には、教育委員会への報告を行い、迅速に指導の徹底を図った。 ○主体的に役割を果たした分掌主任、学年主任が数多く見られ学校運営の充実へ寄与した。 ○校務支援システムを利用した会議の進め方、提案事項と報告事項を分けるなど、効率的な会議の運営をした。	○各行事や学年、学級での取組の中で、自分の立てためあてを意識させることや友達との成長した姿等を価値づけることで、児童が自分や友達、集団の成長を実感したり自己有用感を高めたりすることができるようにしていく。 ○集団によっては、話す聞くの約束の徹底が必要な部分もあった。学年や個に応じためやすを示しながら充実を図っていく。 ○係、当番等は今年度同様に年度当初の研修で確認し、学級開きができるようにする。 ○係活動の充実と共に学級での問題意識を高め学級会の必要性を考えさせる手立てを考えていきたい。 ○さらに積極的にキラキラタイムを活用し体力づくりの取組を広げる。体育学習では、体力向上も含め担当が中心となり授業改善の工夫を提案していく。 ○危機管理意識を高くもち教育活動に取り組む、引取訓練や避難訓練、防災訓練を行う。 ○児童支援コーディネーター主導のもと年度当初には再度ケース会議の進め方や聞き取りの仕方等を確認し、受容と共感について共通理解を図り、安心安全な学校づくりを図る。 ○体罰は決して許されないことを周知徹底し、指導・研修を行う。 ○今後も学校としての道徳の授業への取組を授業参観やHP等を通して発信し、家庭の理解と協力を求める。 ○学校公開日や人権週間を活用して、保護者の方に伝わる実践を行いたい。 ○効果測定、共生*共育に加え、SOS出し方・受け取り方教育についても研修し、より効果的に児童指導に生かした。 ○朝会と学級指導の関連を意識し、朝会後の担任の指導への意識を高める。 ○学校だより、学年だよりの配信を行うことで、より多くの保護者に学校教育活動が伝わるようになった。次年度も継続したい。 ○HPの有効活用をめざし、担当者を中心に学校や学年の取組を保護者や地域に効果的に発信していく方法を考える。 ○学校評価の内容を一緒に検討してきたが、学校の取組が分かりにくいという指摘をいただいている。さらに対話を進め、理解と協力を仰いでいく。 ○今後も学校運営協議会と協働できる教育活動を検討し推進していく。 ○体罰の研修は総括教諭が行った。体罰から枠を広げて、総括教諭が中心となった研修を年間を通して計画的に実施していく。 ○今後も校内研究やミドルリーダーによる授業力向上研修を積極的にを行い、同僚性・授業力の向上に努める。 ○ミドルリーダーの時期から主任としての役割を担う経験を積ませ、専門性を高める意識を高くみたい。 ○総括教諭は学校運営を補佐し推進する役割を果たし、組織運営面でも業務の見直しを担ってもらう。 ○日頃から、児童理解、行事運営等について考えを伝え合う意識を高め、若手教員の学校運営への参画意識を高めたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
○学校運営方針の実現に向けて、各課題の解決に教職員が協働して取り組んでいることをご理解いただけていることが保護者や子どもたちの評価からうかがえる。 ○学校評価アンケートにおいて「よくわからない」との回答が見受けられる。学校の取組がよりわかるよう、発信やアンケートの内容を工夫する必要がある。 ○「学校の友達と過ごすことが楽しい」「学校の学習がよくわかる」という2つの内容を軸にアンケート結果を検討評価したい。 ○保護者、地域の協力のもとに、PTAボランティア等、学校や児童のために何ができるかを前向きに考えていきたい。	コロナが5類に移行し、地域の行事等、様々な活動が復活し、学校との連携を望んでいる中、本当に必要な学校教育活動を見つめなおす1年であった。PTA、保護者の協力もたいへん大きかった。 ○校外学習等の体験的な教育活動を積極的に展開するための年間行事予定を立てていく。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心としたさらなる授業改善とGIGA端末の活用や見直しが必要である。 ○社会に開かれた教育課程の創出に向けて、保護者や外部人材の活用を積極的に取り入れていく。 ○保護者との連携を一人ひとりの児童の実態に合った学習指導、個に応じた児童指導、が実践できるようにする。 ○育てたい資質・能力を身につけさせられるよう教育活動を興味するとともに、校内研究を中心にさらに授業力向上をめざし、児童の豊かな将来の姿につながるよう全教職員で力を合わせて教育活動に取り組むたい。